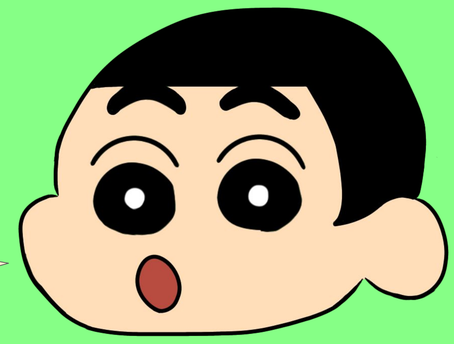
中本ゼミ　チームおらのなかまたちだゾ！
Nakamoto Seminar: Team Crayon Shin-chan

クレヨンしんちゃんから見る日本社会におけるジェンダー意識の変容

Research of Japanese Social Transformation of Gender Perspective by Comparing Crayon Shin-chan's Past and Present

研究背景：
クレヨンしんちゃんシリーズは今では30か国以上の国で見られており、
日本の家族イメージを世界に向けて発信しているアニメの一つである。
近年Political Correctnessを重視する会社が増えてきたが、
過激表現が多いと物議を醸してきたクレヨンしんちゃんはどうであろうか？



研究の流れ

1. クレヨンしんちゃんの過去と現在を比較

過去の映画・アニメ作品をジェンダーの観点を軸に比較し、
どのような変化が起きたのかを分析

2. その背景

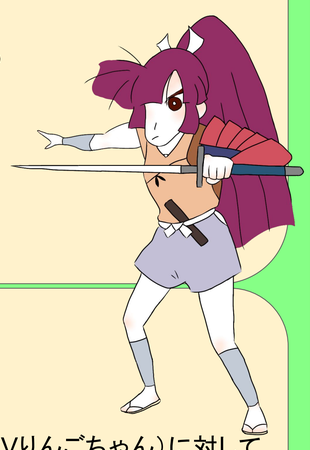
なぜジェンダー表象が変化したのかを以下の3点の観点から分析
①日本社会のジェンダー意識の変容
②監督の考えが作品に与えている影響
③現実世界とフィクションの関係

3. 結論・考察・展望

日本社会におけるジェンダー意識の変容とクレヨンしんちゃん内におけるジェンダー表象の変化に関するまとめと考察

過去

- 「あれは女の子用だろ？」(TVアニメより)：**男の子用と女の子用**の玩具という表現
- **ヒロインである女性**が守られ、**ヒーローである男性**が守るという構図
- 「オカマがいるぞー！おいオカマ！！」：オカマが嫌がられ、**悪者**扱い。**オカマ＝ネタ**
- みさえ「珍しいわね～男の子で花が好きなんて」吹雪丸「嫌いかそんな男は」みさえ「ううん、いいと思うわ」：**花＝女性という固定的なイメージ**が視聴者にあることを前提に
- 吹雪丸「男が生まれなかったため、女であっても男のように育てられた」
  ：主は長男が継ぐという**古い時代の日本の価値観**に関する描写
- 吹雪丸「生まれながらに自分を女と思い込んでいた、いくら治そうとしても治らないんだ」：自身の身体と性が異なると自認している人物に対し、それは良くない、治すべきことだと考えられている。トランスジェンダーが**性同一性障害という病気であると認識されていた時代背景**が見える



現在

- 2020年の作品にはおかまキャラが登場しない＋りんご・いちご・メロン（CVりんごちゃん）に対して<u>おかまキャラとしてのキャラ付けを行わなかった</u>⇦りんごちゃん自身が性別を規定しないタレント(ノンバイナリーではなく、視聴者が思う通りでいいというスタンス)
- みさえの出産シーンが描かれている
- <u>妊婦の女性の活躍</u>を描いた映画↔**ヒロイン＆ヒーローの構図との対比**
- 妊婦の女性に対して「子供さえ産めば良い」という言い方をするシーン。**女性を軽視している**↔長「家で大人しくしていろ」と言われても、置かれた状況に対抗するように**行動を起こす女性像**
- 映画の一部始終、妊婦の女性忍者が<u>ヒロインというよりはヒーローポジション</u>で、村のピンチを救う
- 長老のステレオタイプに基づいた発言に反して、**軽視されていた妊婦の女性忍者が後に戦いで活躍**する様子

変わっていないところ

1995
みさえ「残り物で我慢してね」
ひろし「昨日だってそうだったじゃないか(中略)お前が寝坊したせいじゃないか」
（新聞を広げながら机に座っていて、<u>食事の手伝いはしない</u>）
2001
ひろし（みさえに）「ごはん作れー！！」 VS みさえ（ひろしに）「会社いけー！！」
- みさえが家事を担当する専業主婦、ひろしは仕事（＝**家事には関わらない**）

2022
重役忍者たちは全員男性で、そこで集まってご飯を食べている彼らの酒の酌を女性がつぐ
- **男性を支えるのは女性の役目**だと示唆する描写

背景

①日本のジェンダー意識の変容：日本民間放送連盟の放送基準

2014年以前	2014年以降
無し	72項 性に関する表現は適切に注意して扱う必要 過度な興味本位や露骨さを避けるべき
73項 性的少数者の性的指向を尊重 差別的な言葉や考え方を避け	「性的少数者」⇒「性的マイノリティ」

- 悪党や笑いの手段としておかまキャラや下ネタなどの取り扱い
- 特にお尻のや特定部位の露出シーン

→ **明らかに減少**

②監督の考えが作品に与えている影響

2008年に開催された朝日・大学パートナーズシンポジウムにて
クレヨンしんちゃんの映画監督の原恵一さんの発言

原「アニメは良い子を描くことが多いが、本当の子どもはそうじゃない。
自分と似たしんちゃんが、大人を困らせるのが面白い。
だから大人は怒ったのだろうけど。」

原「人気が出て、テレビ局への苦情が増えて、かなり上品になっていった。
作り手に影響するのは納得がいかない。」

――「クレヨンしんちゃん」は「見せたくない番組」の上位に何度も入ってます。どう思いますか。
原「ちゃんと見てもらえば、しんちゃんがいかに差別をしないか、わかってもらえるのではないか。
いじめもしないし、ものすごく平等ないい子だと思う。」

原監督の発言より、
・大人を困らせるしんちゃんの行動を作品に取り入れている
・しんちゃんの行動を大人が怒っただろうと予測
・人気→テレビ局への苦情
上品な内容へと変化した

③現実世界とフィクションの関係

現実世界 ⇄ フィクション
（影響 →／影響の再強化 ←）

作り手が捉える現実世界がフィクションに反映され、
フィクションが現実世界においてその表象をさらに強化している、
という双方的な関係。(木場安莉沙)

結論・考察・展望

結論・考察

ポピュラー長編アニメーション作品である「クレヨンしんちゃん」内においてジェンダー表象は1990年代当初から現在に至るまでの間で変化しており、日本社会のジェンダー意識変革の影響、Political Correctnessにまつわる変化を読み取ることができる。

展望

メディアは大衆の価値観の影響を受けると同時に大衆の価値観を反映する中でその影響を再強化する。Political Correctnessの流れはメディアが大きな影響力を持つ現代社会において必要不可欠である。

参考文献

・hulu,「クレヨンしんちゃん」,〔https://www.hulu.jp/shin-chan?rsid=T3285c15ff2de9890000002f0000000100000000000005b8c〕(最終閲覧日：2023年10月31日)
・日本民間放送連盟「日本民間放送連盟　放送基準」.11章2022年5月26日..〔https://j-ba.or.jp/category/broadcasting/jba101032#11%E7%AB%A0〕
・「(朝日・大学パートナーズシンポ)アニメ文化と育つ子どもたち　同志社女子大【大阪】」朝日新聞(朝刊), 大阪本社版, 22面, 2008年12月13日, 22面
・木場安莉沙,「子供向けテレビアニメにおける『オカマ』キャラの表象：性的イデオロギーと想定される参与者からの排除」(『言語文化共同研究プロジェクト』, 第2016巻, 2017年, 49-50ページ)